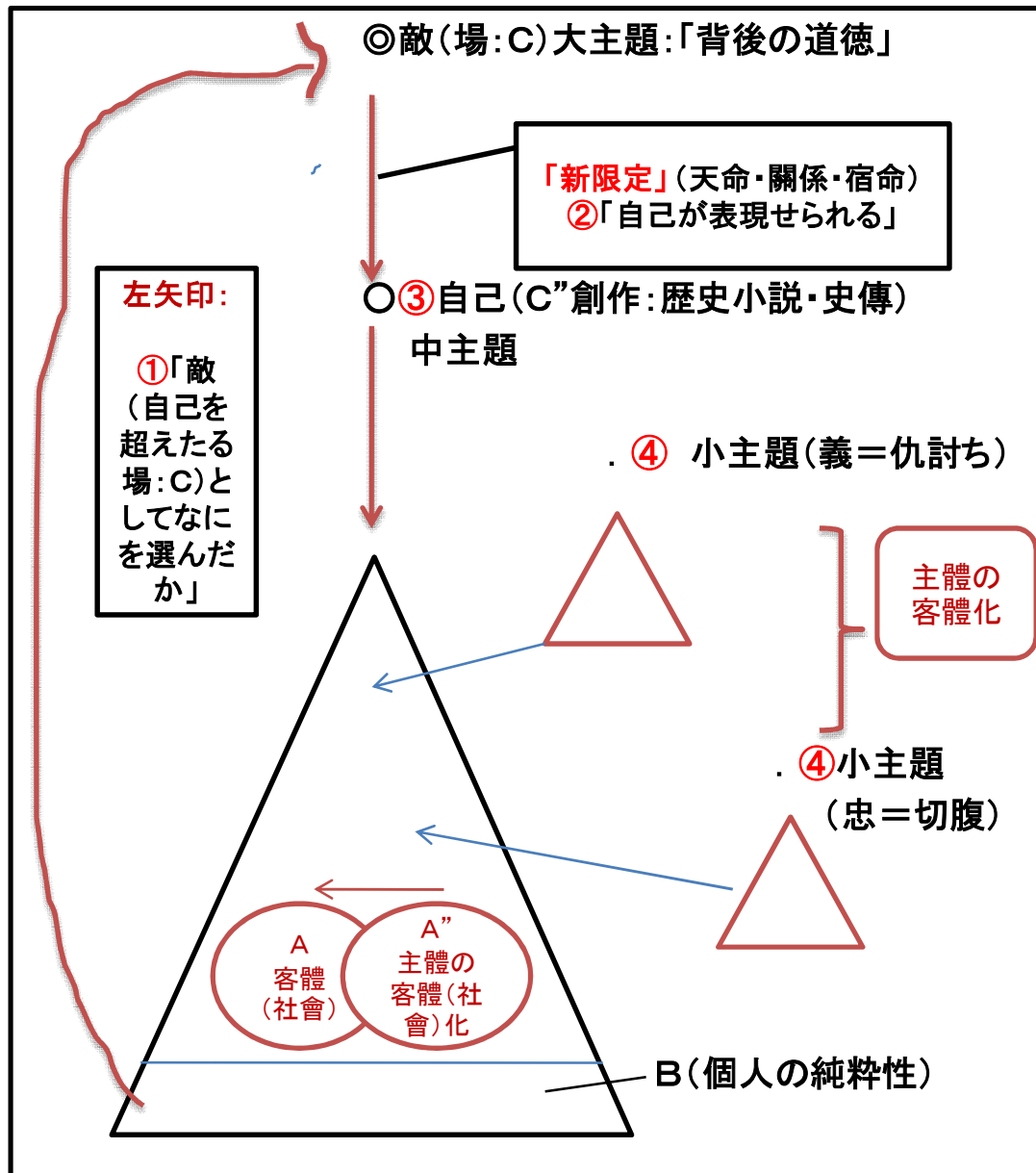


「われわれが敵（自己を超えたる場：C）としてなにを選んだかによつて、そしてそれといかにたたかふ（宿命/自己劇化）かによつて、はじめて自己は表現せられる（創作対象に）のだ。…」⇒圖解次頁

各文人別 「われわれが」	大主題（C）の発見： 「敵（自己を超えたる場）」	「新限定」 （天命・関係・宿命） 「としてなにを選んだか（宿命選擇）によつて」	中主題（C”文學）の創造： 「そしてそれといかにたたかふ（宿命/自己劇化）かによつて、自己が表現せられる」	小主題の創作 「表現せられる（創作対象に）」即ち「現實的客體化」
森鷗外	「背後の道德」	天命（儒教道德＝至誠・武士道）	歴史小説・史傳	義＝仇討ち＝『護持院原の敵討』・忠＝切腹＝『堺事件』・孝＝『高瀬舟』・全般＝『渋江抽斎』等々
漱石	「背後の道德」	天命	「自己本位」 （彼我の差に踏み留まる？）	小主題（『私の個人主義』・各小説他）
二葉亭	「國家」＝Cの代はり	國命	國士として活動	洋行
ルソー	「神」	神意	『告白録』	神・C：「思想に自己を賭けた」描写 P 4 1 4 下
フローベール	夢想（理想人間像）	神意	近代自我（個人主義）否定	『ボヴァリー夫人』他。（神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写。しかし、夢想は作品には登場しない）
チャーホフ	「空家（神不在）」にたへる	「無執着」「底意のない眼」	近代自我（個人主義）が自己解釈「獨り合點」する意識（D 3）を「在るがままに描く」	各戯曲・小説 他
ハムレット	先王の亡霊（C：王權神授）	君命：王權奪還「關節を治す」	復讐	各章：「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では（敵・新限定から）一步も動かず」
恆存	絶對・全體	誠實	「関係と言ふ眞實を生かす」＝フイクション	文學評論・演劇・政治論 他

《本文9頁》:敵(自己を超えたる場C:例「天」)⇒關係・宿命(D1例:天命)⇒自己(C")の活動(例:鴉外「歴史小説」)・・・以下構圖の、「完成せる統一體としての人格」論(テキストP10圖)、及び演劇論(テキストP11圖)との相似形に留意されし。即ち①⇒②⇒③⇒④の流れに。



* 左圖を詳細に記すと、鴉外の場合は以下の通りとなる(拙文『口邊に苦笑』参照)。

大主題(C)の發見「背後の道德」⇒天命・宿命・新限定⇒中主題(C"文學:歴史小説・史傳の創作)⇒小主題:客體化(義=仇討ち=『護持院原の敵討』・忠=切腹=『堺事件』・孝=『高瀬舟』・全般=『渋江抽斎』等々の創作と言う能動となる。

* それぞれの「大主題(C)の發見」⇒中主題(C"文學:歴史小説)の創造⇒小主題

・漱石の場合は、
大主題(C):「背後の道德」⇒天命・宿命・新限定⇒中主題C"「自己本位」(彼我の差に踏み留まる?)⇒小主題(『私の個人主義』・各小説他)。

・ルソーの場合は、
大主題(C):「神」⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C"『告白録』)⇒小主題(神・C:「思想に自己を賭けた」描写 P414下)

・フローベールの場合は、
大主題(C):夢想(理想人間像)⇒神意・宿命・新限定⇒中主題(C")近代自我(個人主義)否定⇒小主題(『ボヴァリー夫人』他。(神・C・夢想「思想に自己を賭けた」描写。しかし、夢想は作品には登場しない)

・ハムレットの場合は、
大主題:先王の亡霊(C:王權神授)⇒君命・宿命・新限定(王權奪還「關節を治す」)⇒中主題(C":復讐⇒小主題(各章:「めまぐるしく行動しながら、意識の世界では(敵・新限定から)一步も動かず」)

・二葉亭の場合は、
大主題(C):「國家」⇒國命・宿命・新限定⇒中主題(C"國土として活動)⇒小主題(洋行)

・恒存の場合は、
大主題(C:絶對・全體)⇒關係・宿命・新限定(誠實)⇒中主題(C"「關係と言ふ眞實を生かす」フィクション):⇒小主題(文學評論・演劇・政治論)

・チエホフの場合は、
大主題(C):「空家(神不在)」にたへる⇒宿命・新限定(「無執着」「底意のない眼」)⇒中主題(C")近代自我(個人主義)が自己解釈「獨り合點」する意識(D3)を「在るがままに描く」⇒小主題(各戯曲他)